



Case study

OTHERS

DuPont™

CORIAN®
NEWS



we+
安藤北斗氏と林登志也氏による
コンテンポラリーデザインスタジオ。
プロダクト、インスタレーション、
グラフィックなど多岐に渡る領域の
ディレクションとデザインを行ない、
テクノロジーや特殊素材を活用した
実験的なアプローチを追求している。
<http://weplus.jp>

INTERVIEW 気鋭のデザイナー集団 we+ が語る デュポン™ コーリアン® の可能性

アートとプロダクトの中間で、コンテンポラリーデザイン作品を手がける we+ のお二人に、
デュポン™ コーリアン® という素材について語っていただいた。

we+ が、2016 年 9 月にフランスで
開催された「PARIS DESIGN WEEK
2016」に合わせて、パリ市内のコンテンポラリー
デザインギャラリー「Gallery S. Bensimon」
で発表した「Patience」は、刻々と動く顔の
パーツによって時刻を示す時計のような
作品だ。モニターに映し出された 3 人の人物。
その口は、1 秒に 1 回、「パツ、パツ」という音を
出しながら開閉を繰り返して秒を刻む。
目は、アナログ時計の針のように回り、右目で
時を、左目で分を示している。

そのモニターを収めた白い額縁は、デュポン™
コーリアン® でつくられている。

今回、デュポン™ コーリアン® を使用して
いただいた「Patience」はどんな作品
でしょうか。

林氏(以下 H) 「Patience」は「忍耐」という
意味の時計です。人が、ある瞬間に額の中心に
閉じ込められてしまったように見える形を
考えました。私たちは日々、良くも悪くも時間に
縛られて生きていますが、そういう人と時間の
関係をあらためて考えてもらえたら、という
思いも込めています。

安藤氏(以下 A) 息つく暇もなく時を刻んで
いる状態が、標本箱のような筐体にパツク
されてしまった、というのが、表現したかった
コンセプトのひとつです。

額の素材として、デュポン™ コーリアン® を
選んでいただいた理由はどのようなところ
でしょうか。

H 最初のプロトタイプは、木+白塗装で
作りしました。それはそれで成立していた
のですが、バーマネット作品として、ずっと
飾っていただくものを作るには、やはり
コンセプトだけではなくてモノとしての



©Masayuki Hayashi



©Masayuki Hayashi

佇まいが強くないといけないと考えました。そこで、デュポン™コーリアン®が候補にありました。

数ある色柄の中からグラサソリッドホワイトを選んだのはどのような理由でしょうか。

H カラーについては、ほかにも検討しましたが、モニターを引き立てるという意味でも、グラサソリッドホワイトの佇まいが一番フィットすると感じました。透明感があることで、スタンドアウトしすぎず、環境にすっと馴染む調性もメリットかもしれませんね。

A デュポン™コーリアン®の中でも透光性が高く、光と組み合わせることで作品全体の見え方にも奥行きがでてくる点が魅力的で、新しい表現方法になるのでは、という期待もありました。加工面では、シームラインが目立たないように、ほとんどの角を留め接着にしています。その上ですべてをピン角仕上げにできる素材としての強度も、魅力でした。

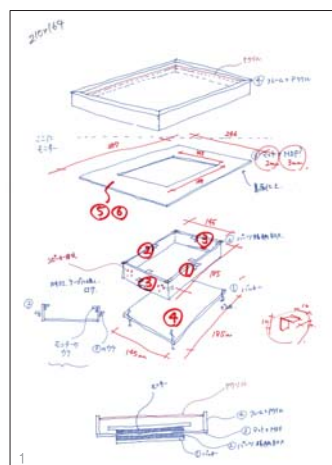
実はデュポン™コーリアン®は、角アールの表現ができる点で選ばれることも多いのですが。

A 建築で使用する場合は、マスプロダクションでピン角は難しいですね。アートの寄った作品だからこそできた表現だと思っています。この作品の中で、非常に重要になってくるのはモニターですが、その部分にすっと目がいくよう、余計な要素を極力減らしたいと考えてピン角にしました。実現できたのは、加工をお願いした大日化成工業さんの加工精度の高さによるところもあると思います。

アート作品のような

「佇まい」を表現できる素材でした。

1 製作にあたり、安藤氏が描いたスケッチ。2 額縁の角は三方留めで組み立てられているが、正面の板も留めで接着しているの、デュポン™コーリアン®の小口はまったく見えていない状態。3 「デュポン™コーリアン®の額が、素晴らしいコンセプトの作品にふさわしい佇まいをつくるお手伝いができて、うれしく思っています」と、大日化成工業 代表取締役社長 平澤正嗣氏。



分野にとらわれず、さまざまな表現をされるお二人からみて、デュポン™コーリアン®という素材の面白さや、可能性はどのようなところにあると思われますか。

A 一番の魅力は、素材の存在感だと思うんです。奥行き感や素材としての精度が、佇まいに現れている。質量や密度、と言ってもよいかもしれません。

H 今回、デュポン™コーリアン®を選んだ理由のひとつには、素材の持つクオリティの高さがあります。加工の工程を考えても、一点一点を大切に作っていくプロダクトとの相性もいいのではないかと思います。

A たとえば、透光性の高いカラーであれば、デジタルデバイスのモニターを下にいれば、デュポン™コーリアン®にうつすらと情報が表示されるような、ユーザーインターフェースになるかもしれない。サインにもなるし、あるいはこれまでにない家具になるかもしれません。新しい視座で検討することで、可能性は広がっていくと思います。

H 石のようにどっしりとした質感があるのに、均一なので、人工物と自然物のちよどよい中間地点、という印象がありますね。それはデュポン™コーリアン®でなければ、出せない質感だと思います。光の反射とか、見た目の落ち着き感は、独特だと思っています。

A そうですね、良い意味での、違和感。重さを感じるのに、均一な面が継ぎ目なく、シームレスに続いていく不思議な感覚は、ほかの素材にはないですね。

H そのエンドレス感をデザインで表現できると面白いものができるかもしれませんね。

デュポン™コーリアン®ショールームで 「Patience」を展示します。

2017年1月20日(金)～5月12日(金)の期間限定で
「Patience」を弊社ショールームに特別展示いたします。
日本初公開となるこの機会に、ぜひ実物をご覧ください。

住 所 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル 5階
お問い合わせ 03-5410-8551
営 業 時 間 10:00～17:00(木・土・日・祝日休み)
※ショールームは完全予約制です。

使用色
グラサソリッドホワイト



「Patience」
●デザイン・製作 we+ inc.
●デュポン™コーリアン®加工協力 大日化成工業株式会社



住空間の質を変える、こだわりのアイテム

◆ スガツネ工業株式会社 スイッチ・コンセントプレート PXP型 デュポン™ コーリアン® シリーズ



スイッチ使用例
クラムシェル



コンセント使用例
シラスホワイト

スガツネ工業株式会社 スイッチ・コンセントプレート PXP型

問い合わせ先 スガツネ工業株式会社
TEL: 03-3864-1122(代)

ショールーム
東京/東京都千代田区岩本町 2-5-10
名古屋/愛知県名古屋市中区大曾根 3-15-3
京都/京都府京都市南区九条町 399-27
大阪/大阪府大阪市中央区内淡路町 2-2-6
福岡/福岡県福岡市博多区博多駅南 1-13-8
他海外に4ヶ所

SUGATSUNE

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



シラスホワイト



クラムシェル



〈NEW〉アース

「[LAMP]や「Zwei」などの自社ブランドで建築金物・家具金物を手がける老舗企業・スガツネ工業株式会社が、新たに、こだわりのスイッチ・コンセントプレート PXP型を提案。「カーテンや壁紙のデザインを選ぶように、空間に合わせてスイッチやコンセントを選ぶ」をコンセプトに、色柄、材質、デザインまで多彩な250種類以上のラインナップを用意。良いものを所有する喜びを感じてほしいと、取り付け方法から独自に開発し、ネジを見せない工夫をしたり、天然木を使ったシリーズでは表面の仕上げにもこだわるなど、徹底して品質を追求している。

「取り付けには、専用ブラケットを使用していますが、一般の方にも扱いやすいこと、十分な強度を確保すること、加工が複雑になるとコストが上がってしまうことなど、さまざまな条件をクリアするものを開発しました」と、スガツネ工業株式会社の佐久間優子氏。

とって、まさに待望の商品といえる、このスイッチ・コンセントプレートに、このたびデュポン™ コーリアン® のシリーズが加わった。

「キッチンなど、水回り空間へ石調のものを提案したかったので、それならば、品質、認知度、色柄の豊富さなど、デュポン™ コーリアン® がぴったりだと判断しました。手が触れたとき、心地よくひんやりと感じる点も、高級感につながっていると思います」と同社の富田龍之介氏。

新シリーズ開発にあたり、佐久間氏は積層の美しさを活かしたデザイン案をいくつも作成し、最終的に石らしいシャープ感と、手が触れたときのやさしさを考慮して、ストレーとアールを組み合わせたデザインに決定。カラーは汎用性の高い白系、黒系、ナチュラル系の3色となった。

ディテールまでこだわりの凝縮されたデュポン™ コーリアン® のスイッチ・コンセントプレートは、キッチン空間のトータルコーディネートでも活躍することだろう。

施工事例募集

デュポン™ プライベートコレクション(新色)を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

三麗イオン



MRC・デュポン株式会社

<http://www.dupont-corian.net>

本社: 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL: (03) 5410-8551 FAX: (03) 5410-8501



光るサインのウォーターサーバー

◆ MIZUcafé PRODUCED BY Cleansui



「Cleansui」のロゴは、デュポン™ コーリアン® ロイヤルレッドに透光性の高いグラーサ® ソリッドホワイトを象眼し、裏側から白色のLEDを当てている。小さな文字は切抜加工を施した部分にグラーサ® ソリッドホワイトを3.5mmに削って貼り付けている。「板厚によって光の陰ができてしまうので、いくつも試作品をつくり、文字をクリアに出す方法を探りました」と株式会社エイベクス 代表取締役 榎本吉扶氏。

MIZUcafé PRODUCED BY Cleansui

所在地
東京都渋谷区神宮前 6-34-14
原宿表参道ビル 1F
<http://mizucafe.jp/>

営業時間 10:00 ~ 22:00 / 不定休

デザイン
株式会社 GK インダストリアルデザイン

デュポン™ コーリアン® 加工協力会社
株式会社エイベクス

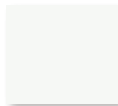
〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



ロイヤルレッド



グレイブルー



グラーサ® ソリッドホワイト

DuPont™ CORIAN® NEWS 読者限定プレゼント 【2015年3月末日まで】

QRコードを画面保存し、スタッフにお見せいただくか、『デュポン™ コーリアン® ニュースを見た』とお伝えいただくとお好きなドリンク一杯を無料でサービス。

※17時以降にご来店のお客様で、お食事をご注文の方限定 ※他サービスとの併用は不可 ※特別メニュー・スムージーは除く



三菱レイヨン・クリンスイ株式会社
社がプロデュースする、さまざまなこだわりの水を体感できるカフェが、東京・原宿に誕生した。空間・サービス・メニューなどすべてで、水の魅力を表現しているという。この店舗で、こだわりの水を提供するために開発された「MIZUcaféサーバー」のデザインを手がけたのは、株式会社GKインダストリアルデザインの磯崎康氏と森田至厚氏。素材にはデュポン™ コーリアン® が使用されている。

「サーバーの化粧材は、浄水された水のクオリティを表現するために、上質感のある素材を求めました。適度な光沢と素材そのものの厚みを感じさせることで、重量感や高級感、清潔感も表現できたのではないかと思います」と森田氏。採用されたメイソカラーは、ロイヤルレッド。側面にはグレイブルーが用いられた。サーバー前面に記された文字の部分は、内部から透光されてほどよく浮かび上がる仕掛けがされている。ロイヤルレッドのインパクトと相まって、サーバーはカウンター内に置かれていながらもかわらず、ホールから自然に目にとまる。まさに、磯崎氏と森田氏がイメージしていた、品格ある存在感を放っている。

「光の演出が可能であったからこそ、無駄な造形を省いた上質なデザインが成立しました。デュポン™ コーリアン® は、天然石にも通じる重量感や質感を持ちながら、文字を象眼できてしまう高い加工性を有していることに、この素材以外ではあり得ない強い魅力を感じました」と話してくださった。

三菱レイヨン  MRC・デュポン株式会社

<http://www.dupont-corian.net>

本社：〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL: (03) 5410-8551 FAX: (03) 5410-8501



展示のメインとなったのは、全65色のカラーサンプルで側面を彩った、アイランドキッチンの実物大模型。キッチンシンクは、デュポン™ コーリアン® 900J、カウンタートップにはウィッチヘーゼルを使用しました。ブース左手の壁には、大判サイズの「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズを展示し、来場者の関心を集めました。



「キッチンコンシェルジュパビリオン」に デュポン™ コーリアン® のブースが初出展

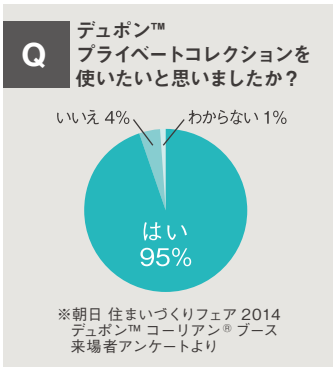
◆ 朝日 住まいづくりフェア 2014

2014年5月30日(金)～6月1日(日)の3日間で、延べ3万3000人の来場があった「朝日住まいづくりフェア2014」に、デュポン™ コーリアン® のブースが初出展しました。会場は、例年の「朝日住まいづくりフェア」でも人気の「キッチン・コンシェルジュパビリオン」。オーダーキッチンを検討している方が、キッチンショップロのスタッフなどのキッチンのプロに、直接相談することができるコーナーです。

「今回の出展は、デュポン™ コーリアン® の本来の用途ともいえるキッチンカウンタートップとしての魅力を、あらためて広めていこうという意図がありました。また、加工性、耐久性、メンテナンス性などに優れるデュポン™ コーリアン® の中でも、天然石にも通じる自然な模様が特徴のデュポン™ プライベートコレクションシリーズを、より多くの方に知っていただくことも、目的のひとつでした」と、MRC・デュポン株式会社の展示会担当者。そこで、「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズのウィッチヘーゼルをカウンタートップに採用し

たアイランドキッチンの実物大模型をブース内に展示し、「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズの流れ模様も確認しやすいよう、大判サンプルを壁に配置しました。その結果、会場で行ったアンケートでは「デュポン™ コーリアン® プライベートコレクション」を使いたいと思う」と答えた人は、95%にもなりました。来場された方には、その魅力をも十分に伝えることができたのではないのでしょうか。

「カウンタートップを撫でながら質感を確かめているような姿も、何度かお見かけしました」。天然石のような風合いでありながら、冷たさがなく、触れると柔らかな印象を持つ「デュポン™ プライベートコレクション」シリーズならではの意外性も、来場された方には実感していただけたようです。



1 連日多くの方にご来場いただいた、デュポン™ コーリアン® ブース。2 側面のサンプルは取り外しが可能。3 インフォメーションカウンターにはブルーミンググリーンを使用。4 カウンタートップはウィッチヘーゼルの透光性を活かしたデザイン、IH 部分はラバロックとグラサソリッドホワイトを使用した象眼加工。5&6 2014 年度のカタログでも紹介している異素材との組み合わせを実物で展示。手前の展示台には、さまざまな加工サンプルや、自由にお持ち帰りいただけるサンプルチップなどを置きました。



また、『朝日 住まいづくりフェア』は、建築家やデザイナー、キッチンショップの方など、ふだんからデュポン™ コーリアン® にさまざまな形で関わっている方が、多く来場される展示会であることも特徴です。

「キッチンのプロ向けには、エッジ加工や曲げ、ツヤ出しなどのサンプルも展示しました。今回の出展で、多方面の方々に、カタログだけでは伝えきれないデュポン™ コーリアン® のポテンシャルを、あらためて知っていただくことができたのではないのでしょうか」と担当者。

なお、今回展示された、アイランドキッチンの実物大模型は、本社のショールームでご覧いただくことができます。ウィッチヘーゼルの透光性などもご確認いただけますので、ぜひ足をお運びください。

朝日 住まいづくりフェア 2014

会期
2014 年 5 月 30 日 (金)・31 日 (土)・
6 月 1 日 (日) ※終了

会場
住宅設備・建材 EXPO 内
キッチンコンシェルジュパビリオン
(東京ビッグサイト 西 1・2 ホール)



曲面と光で空間をデザイン。 アクティビティを喚起するインスタレーション

◆ 堀内功太郎展 2014 “Fusionner”





(右ページ) 真っ白な空間の中央に置かれたデュポン™ コーリアン® の作品。(右) 個展のオープニングパーティーでも円形のくぼみにワインを注ぐなど自由な使い方のデモンストレーションが行われた。(左上) 曲げ加工により一枚布のようなやわらかさを表現。(左下) 円形部分は厚みを変えて加工し、透過率に変化を与えた。



「Fusionner(フュージョネ)」とは、フランス語で「溶け込む」という意味。建築あるいはデザインは、それ自体が主張しすぎる必要はなく、最も重要なことは、建築空間に集う人。そこで繰り広げられるアクティビティであるという考えに基づいてつけられたタイトルだ。

23歳でオランダに渡り、フランスのドミニク・ペロー事務所などに勤務しながら、世界22カ国の建築プロジェクトにかかわってきた堀内功太郎氏。今年3月、名古屋で開催された個展に、デュポン™ コーリアン® の作品を中心に空間全体をデザインするインスタレーションが展示された。「建築空間や内部空間も、水平・垂直なラインでヴォリュームを構成することに疑問があり、三次元の曲面で緩やかに空間をつないでいく方がより自然であると考えま

す。そうした表現ができるという点で、デュポン™ コーリアン® は大好きな素材のひとつ」と堀内氏。

今回の作品では、大小さまざまな円形を用いて、デュポン™ コーリアン® の厚みを部分的に変えている。それにより透過する光の違いを楽しむことができる。「実際の建築設計の場でも、光の濃淡やヴォリュームで空間を表現することがほとんど。ですから、ジョイント部分もシームレスにできるデュポン™ コーリアン® は、照明器具などに用いた際も、光や影にあまり影響を与えず造形できるところもよいと思います」。

曲面と光という堀内氏の作品に欠かすことのできない要素は、デュポン™ コーリアン® の特性が発揮される分野でもある。このインスタレーション作品のような建築空間が、国内に誕生する日も近いことだろう。

堀内功太郎展 2014 “Fusionner”

会期(終了)
2014年3月20日(木)~3月30日(日)

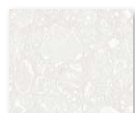
会場 Gallery White Cube
愛知県名古屋市中区丸の内2-15-28
ビッグベン丸の内4F

主催
DSA 一般社団法人日本空間デザイン協会
Gallery White Cube

デザイン
堀内功太郎建築設計事務所
<http://kotohoriuchi.com>

デュポン™ コーリアン® 加工協力
株式会社エイペクス

〈使用されたデュポン™ コーリアン®〉



グラサ® ホワイト



Salon du Fromage Paris

パリのオペラ座とルーブル美術館の間に位置するチーズショップ＆レストラン「サロンド・フロマージュ」は堀内功太郎氏の代表作品のひとつ。そのインテリアにはデュポン™ コーリアン® がふんだんに使用されている。左：円柱形の冷蔵展示台が並ぶショップフロア(展示台天板と照明がデュポン™ コーリアン®)。右：レストランのキッチンもデュポン™ コーリアン® 製。



『新チューボーですよ!』のキッチンに デュポン™ コーリアン® が採用



『新チューボーですよ!』スタジオセット

TBSの人気番組『チューボーですよ!』(毎週土曜よる11時30分)が、昨年11月にリニューアルして『新チューボーですよ!』としてスタート。『チューボーですよ!』時代から、撮影セットのキッチンカウンターにはデュポン™ コーリアン® が使われていましたが、『新チューボーですよ!』の新しいキッチンにも、引き続き採用されています。こうした実績は、撮影現場という特殊な環境でも、その耐久性やメンテナンス性など、十分なパフォーマンスを発揮できていることの証と言えます。黄色を基調としたセットの中で、白い輝きを放つデュポン™ コーリアン® のキッチンカウンター。楽しいトークと美食の数々を堪能しながら、デュポン™ コーリアン® のキッチンカウンターにもぜひご注目ください。



『朝日 住まいづくりフェア2014』に 出展します!

「住まいづくりのヒント」が一堂に集まる『朝日 住まいづくりフェア2014』。MRC・デュポン株式会社は、同フェア内キッチンコンシェルジュパビリオンに、デュポン™ コーリアン® のブースを出展します。デュポン™ プライベートコレクションをはじめ、キッチンにお薦めのカラーの紹介、デュポン™ コーリアン® の加工性・透光性などを実際にご確認いただける展示のほか、他素材とのコーディネート提案など盛りだくさん。キッチンのアイデアを広げるヒントを、たくさんご用意してお待ちしています。

朝日 住まいづくりフェア2014 住宅設備・建材 EXPO 内 キッチンコンシェルジュパビリオン

会期/2014年5月30日(金)・31日(土)・6月1日(日)
10:00~17:00
東京ビッグサイト 西1・2ホール



写真は昨年の展示会の様子



ダイナミックな曲線美と素材づかい デュポン™ コーリアン®で作る美しい作品の数々

◆ クラウディオ・コルッチ展 『COLOURISTIC!』





(右) コーリアン®を使用し、美しい曲線と、繊細な彫りで作り上げたライト「SQUEEZE LAMP」。幻想的な雰囲気はコーリアン®ならではの。(上右) 背面にカッティングを施し、シームレスに仕上げたチェア「SUZHOU MOMENT」は注目の的。(上左)(下左) コーリアン®の枠で、小物などを飾るスペースを生み出した「mini tokonoma」。和のテイストにもコーリアン®の独特の質感がマッチ。(下中) ソリッドな黒ながら、柔らかな素材感が温かみを感じさせる。(下右) 鮮やかな色彩の中、コーリアン®の無垢な黒がアクセントに。

展覧会写真：©Nacasa & Partners Inc

クラウド・コロッチ展 『COLOURISTIC!』

開催期間
2013年3月5日(火)～10日(日)

会場
ヒルサイドフォーラム&ギャラリー
東京都渋谷区猿楽町 18-8
ヒルサイドテラス F 棟

主催 CLAUDIO COLUCCI DESIGN

東京、パリ、上海、ジュネーブを拠点に、世界中で活躍し、目を奪われるような色彩と曲線美、大胆な素材づかいで定評のあるデザイナー、クラウド・コロッチ氏。その展覧会『COLOURISTIC!』が、3月に東京・代官山で開催された。

クラゲを彷彿させる幻想的な照明オブジェや弁当箱を模した時計などが並ぶ中、デュポン™ コーリアン®の作品も登場。優美な曲線美を描く「SQUEEZE LAMP」やレースのような繊細な模様を紡ぎ出す「SUZHOU MOMENT」をはじめ、色とりどりのファニチャーを引き立てる黒いフレーム家具「mini tokonoma」シリーズなど、会場のあちこちにコーリアン®を生かした作品が並び、訪れる人の目を楽しませていた。

今回、クラウド・コロッチ氏

は、コーリアン®とファブリック、コーリアン®とアクリルなど、従来あまり見られなかった組み合わせを試み、新たな世界観を提案した。

優れた加工性で、さまざまな造形や曲線を実現可能にするコーリアン®。さらに、透光性を生かして光と組み合わせることや、コーリアン®の代名詞でもある継ぎ目の見えにくいシームレス接着によって、高いデザイン性の追求にも応えることができる。『COLOURISTIC!』とは、こうしたコーリアン®の魅力も、余すところなく表現されていた。

「日々のライフスタイルの中により積極的に色彩を取り入れ、上手く素材と組み合わせることでデザインの可能性や日本のものづくりの可能性が広がる」というコロッチ氏。今後の豊かなクリエイションにも注目したい。



クラウド・コロッチ氏
写真：©Davolo.com



思わず笑顔になる愛らしさと温かさ。 デュポン™ コーリアン® がジュエリーに



東郷由佳氏

2011年 専門学校ヒコ・みづのジュエリー
カレッジ メタルクラフトコース 卒業

2012年 専門学校ヒコ・みづのジュエリー
カレッジ ジュエリー専門課程 研修生 修了

(受賞歴) 2010年 日本ジュエリーアート展
under 26部門入選、2011年 第51回日本
クラフト展入選、2012年 日本ジュエリー
アート展一般部門入選



(上)「Pearl Snow」シリーズ。雪の日に窓から漏れるやさしい光の中を雪が舞っている様子を表現したもの。フレームの外側がデュポン™ コーリアン®。雪の粒はパールを用いている。(左上) ふだん使いに身につけやすいシリーズとしてデザインされた「sekoitus」は北欧的な色づかいが特徴。コーリアン®で小さなパーツをつくり、組み合わせている。(左中) 河原の小石をモチーフに制作したブローチ「Pebble」シリーズ。寄木細工や金継ぎのような、和のテイストを感じさせる作品群。(左下) 鍋から立ち上る蒸気をイメージした「Steam Ring」シリーズ。素材が人工大理石であることを感じさせない、やわらかなフォルム

子どもの頃のキラキラした思い出
を作品で表現するジュエリーデザイ
ナーの東郷由佳氏。「はじめてコーリ
アン®に触れたときに温かみを感じ
て、これだ!と思いました」と東郷氏。
以来、作品には必ずデュポン™ コー
リアン®を用いている。「ジュエリー
は身につけるものなので、汚れにく
く傷つきにくい素材であることも
大切。コーリアン®は磨くことで再生
しやすい点ではシルバーなどに近い
感覚。カットしたり、削ると、表面と
は違う、想像もしていなかった柄が
でてくるので、楽しみながら制作し
ています」。なお、写真(上)のジュエ
リーは(社)日本クラフトデザイン協
会主催の日本クラフト展入選作品。



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

URL: <http://www.dupont-corian.net>

本社: 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル
TEL: (03) 5410-8551 FAX: (03) 5410-8501



“Corian® Colour Evolution”

デュポン™ コーリアン®と美しいデザインの旅へ



1. From the Favoris collection by Moustache, the “Baobab” console made in DuPont™ Corian®; design bna Vautrin; photo Leo Torri for DuPont™ Corian®.
2. The two versions of the “Runon” chaise lounge and low table/pouf for exteriors by TAO Esterno made with DuPont™ Corian®; design Setsu and Shinobu Ito; photo Leo Torri for DuPont™ Corian®.
3. The “Colour Chair” desk chair, the “Leftover Table” desk or dining table and the “Leftover Armchair” visitors chair by Rabin Hage made in DuPont™ Corian®; design Rabin Hage; photo Leo Torri for DuPont™ Corian®.
4. “Prism” side tables by e15 made with DuPont™ Corian®; design Philipp Mainzer; photo Leo Torri for DuPont™ Corian®.

想像的な作品を発表していた。
ポン™ コーリアン®の新品を使い、

展示コンセプトは、イタリア人建築家
であらう Giorgio Zappalà 氏が、
家具メーカー 4 社によるオリジナル
作品が公開された。e15 社（ドイツ）、
Moustache 社（フランス）、Rabin
Hage 社（イギリス）、TAO Esterno 社
（イタリア）の各社は、いずれもデュ
ポン™ コーリアン®の新品を使い、

2012 ミラノデザインウィーク
（2012 年 4 月 16 ～ 22 日）において、
デュポン™ コーリアン®は “Corian®
Colour Evolution” を開催。「コーリ
アン® カラー革命」と題して行われた
展示イベントの目玉となったのは、
新しく開発されたヨーロッパ中東ア
フリカ地域向けのカラーパレットだ。
2012 年 6 月に発売された新品を
含むこのカラーパレットは、金属、木材、
ガラス、石といった他素材と組み合
わせる上で、最もふさわしいデュポン™
コーリアン®の色調を選ぶことがで
きる革新的なツールとなっている。

三井物産 MRC・デュポン株式会社

本社：〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

デザイナーとのコラボレーションで 広島から世界へ羽ばたく日本の家具づくり

[MARUNI COLLECTION Lightwood ダイニングテーブル]



写真撮影／ナカサ&パートナーズ ©株式会社マルニ木工



写真撮影／川部米広 ©株式会社マルニ木工

ミラノサローネでも注目の 新シリーズが誕生

2011年4月のミラノサローネ国際家具見本市に出品され好評を博した株式会社マルニ木工の「MARUNI COLLECTION 2011」が世界で注目を集めている。同コレクションは、2008年にマルニ木工がデザイナーの深澤直人氏と共に立ち上げたプロジェクトだ。同年発表された「HIROSHIMA」シリーズのアームチェアはイギリス、フランス、ドイツなど主要20カ国で展開される商品となっている。2011年の新作として発表されたのは、新しくデザイナーとして加わったジャスパー・モリソン氏による「Roundish」シリーズと深澤氏による「Roundish」シリーズのダイニングテーブルの天板にデュポン™

コーリアン®が採用されている。

「Lightwood」シリーズの特長はその軽さだ。余計な部品を排除し、極限まで絞り込んだ美しいフォルムは、まるで彫刻作品のよう。こうした職人技でなければ再現しにくい繊細なデザインが可能であるのも、80年以上の歴史を持つ老舗家具メーカーの技術力があってこそ。同社は創業当時から「工芸の工業化」を掲げ、独自に加工機械を開発するなど「職人の手によらない分業による家具づくり、量産化」に取り組んできた。「Lightwood」シリーズは、そうして培われた同社の技術力を最大限に活かすべくデザインされた。また、チェアの座面素材やボディカラーを選ぶことも特長のひとつ。ダイニングテーブルの天板もメーブル突板とデュポン™コーリアン®から選ぶことができる。

「天板に関しては、モリソン氏から

デュポン™コーリアン®をラインナップに入れたいと要望がありました」と話してくださったのは、株式会社マルニ木工営業企画部の大山こすえ氏。

モリソン氏によると、「コーリアン®は美しく、とても実用的な素材だ」といつも思っていました。木材と組み合わせた多くのキッチンカウンターの設計でも使ってきました。今回、Lightwood tableをデザインするにあたり、コーリアン®を組み合わせることで新しさを持たせようと考えたのです。異なる素材の対比がとても面白いと感じています」とのこと。カラーは、モリソン氏がよく採用するというカメオホワイト。「コーリアン®の中で最も美しく、目にも優しく、白過ぎず、コーリアン®を最も良く見せる深い表情を持っているからです」とその理由を説明してくださった。

海外展開を視野に入れ サイズ、素材を選定

「コーリアン®を採用するにあたり一番の問題はサイズでした。海外のディーラーからはダイニングテーブルの奥行きは800〜900mmでないと売りにくいと言われていました。コーリアン®はシート接着もできますが、今回は構造上、強度を保つためには原板のまま使用しなければなりません。いくつかの条件を満たすことで特注サイズに対応してもらえたことになったので、実現が可能になりました」とおっしゃるのは、開発部の川上敏宏氏。しかし同社で本格的にコーリアン®を扱うのは今回がほぼはじめて。デザインの再現が技術的に可能か、生産性を落とさずに木とは異なる素材をいかにラインの中に組み込んでいくかなど、さま



株式会社マルニ木工
開発部 川上敏宏氏(左)と
営業企画部 大山こすえ氏(右)

ざまな課題をクリアするのに1年半をかけたという。「新しい取り組みだけに、製品化は慎重に行いました」と川上氏。だが、今回得たノウハウを活かして、今後の製品展開にもコーリアン®を採り入れる可能性が広がったという。大山氏も「木部との接着という課題がクリアできたということも大きいのですが、素材としてメンテナンス性と丈夫さがある点も魅力ですね。また、実際に各国で展示を行ってみて、海外でのデュポン™コーリアン®の認知度の高さもあらためて実感できました」と語ってくださいました。

「MARUNI COLLECTION Lightwood ダイニングテーブル」

デザイン ジャスパー・モリソン

製作 株式会社マルニ木工
<http://www.maruni.com>

サイズ・価格

※パーチ/ナチュラル×コーリアン®の場合

<ダイニングテーブル 130>
W1,300×D800×H710 (mm)
¥292,000

<ダイニングテーブル 180>
W1,800×D900×H710 (mm)
¥320,000

<ダイニングテーブル 240>
W2,400×D900×H710 (mm)
¥350,000
ほか

問い合わせ
TEL.03-5614-6598

使用された
デュポン™コーリアン®



カメオホワイト



Portrait of Jasper Morrison 2011
Photo Credit: Kento Mori

ジャスパー・モリソン氏

1959年ロンドン生まれ。キングストン美術学校、RCA 王立美術大学を卒業後、ベルリンHdKで学び、86年にはロンドンにデザインオフィスを構える。Jasper Morrison Ltd. は現在ロンドンに本社を構え、2002年にパリ、07年には東京に支社を開設。活動は幅広く、家具、食器、キッチン用品、照明、電化製品のデザイン、公共空間のデザイン、近年では腕時計、時計や靴も手がけている。05年、深澤直人氏と Super Normal プロジェクトを設立し、06年に初めての Super Normal 展を東京で開催。09年、Jasper Morrison Limited Shopがロンドンでオープン。11年にはオンラインショップ (www.jaspermorrison.com/shop/) を立ち上げる。

WOWOWの新スタジオに コーリアン®製ベンチが登場

[WOWOW 渋谷ステーション]



〈ザ・プライムショー〉

WOWOW プライム (BS デジタル 191ch)
月～金 18:55 ※無料放送

使用された
デュポン™コーリアン®



グレイシアホワイト ノクターン

2011年10月にスタートしたWOWOWのエンターテインメント番組「ザ・プライムショー」のために新設されたスタジオに、伊藤節・伊藤志信両氏がデザインしたデュポン™コーリアン®製のベンチ“OPS SOFA”が採用された。

今回の採用について、新スタジオ「WOWOW渋谷ステーション」のプロデュースに携わった株式会社アックスの吉田健二氏にお話をうかがった。「このスタジオはWOWOWの新しい試みのひとつでした。番組自体も無料放送で、生放送の情報番組ということでこれまでにないスタイル。そこで視聴者との距離感を縮めることができるオープンスタジオを提案しました」。場所は、渋谷公園通りに面したビル1階。収録のない時間には、さまざまなイベントが行われるコミュニケーションスペースとしての機能も備えている。「セットのつくり方も、これまでとは違う方法論で行いました。たとえば、タイアップを採り入れることで、本物志向の

よりよいものがつくれるということを示したいと考えたのです」。

誰もが自由に立ち寄ることが出来るスタジオという特性をいかし、ギャラリーのように、それ自体が作品として魅力ある家具を置くことを提案。女性の視聴者を意識して、落ち着いたヨーロッパアンスタイルのデザインがよいと考え、伊藤節・伊藤志信氏の作品に注目したという。「今回はデザイナーとのタイアップという形で作品の展示が実現しました。いくつか置いた作品の中で“OPS SOFA”は異色の存在。ひとつ個性の強いものを置きたいと思って採用しました。デュポン™コーリアン®の持っている“本物感”は今回のコンセプトにもぴったり。伊藤節氏も、加工技術の限界に挑戦したこの作品を、ぜひ多くの人に直接触れて感じてもらいたいと展示を快諾してくれました」と吉田氏。渋谷散策の折には、ぜひ「WOWOW渋谷ステーション」に立ち寄って、実物を見ていただきたい。



〈表紙の写真〉黒檀+デュポン™コーリアン®の箸「森の調べ 湖」¥5,250

新潟県三条市の老舗メーカーが手がける黒檀とデュポン™コーリアン®の八角箸。塗装をかけず天然木の風合いをそのまま生かした仕上がりで、コーリアン®の無垢な質感がバランスよくなじみ高級感を漂わせる逸品。パリのメゾン・エ・オブジェなどにも出品されている。

(問) マルナオ株式会社 -MARUNAO- <http://www.marunao.com> TEL.0256-34-3741

三美レイヨン **DUPONT** 合併事業 **MRC・デュポン株式会社**

本社: 〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

ディズニーとデュポン™コーリアン®による 映画を題材にしたデザイン展

[TRON designs CORIAN®]



▲「セーフ・ハウス」のアウトドアエリア。伊藤節＋志信氏が、映画「トロン：レガシー」にインスパイアされてデザイン、タオ・エステルノ社が提案した家具が置かれている。
2脚のシェーズロングとラウンジチェア、トレイの付いたローテーブルなどすべてデュポン™ コーリアン® のグレイシアホワイトでつくられた。

「トロン：レガシー」と コーリアン®の融合

2011年4月、ミラノデザインウィークでディズニーとデュポン™ コーリアン®は、その創造性と革新性を融合させ、映画「トロン：レガシー」を題材としたデザイン展「TRON designs CORIAN®」を開催した。

映画「トロン：レガシー」の演出効果のすべては、ファッション、音楽、デザイン、技術にいたるまで、さまざまな分野から結集したアーティストやデザイナーらによって生み出された。さらに、ダフト・パンクによるオリジナルサウンドトラック、ハイエンドのアパレルやデザイナージュエリー、ビデオゲーム「トロンエポリューション」(日本未発売)など、もはやその世界観は映画のみに留まらず、社会現象になりつつある。

「TRON designs CORIAN®」では、映画に登場する3つの重要なアイテム―「フリンのアーケード」「ライトサイクル」「セーフ・ハウス」をフォーカスし、あらゆる作品、その背景となる内装をデュポン™ コーリアン®で製作。コーリアン®

の特性や美しさ、質感を活かしてトロンの世界を表現したインテリアや建築物が展示された。

「フリンのアーケード」は「トロン：レガシー」と、1982年に公開されたオリジナル「トロン」の中でも最も重要で象徴的な場所のひとつ。今回、この場所をデザインしたのは、東京を拠点として活躍するフランス人デザイナーのグエナエル・ニコラ氏。グレイシアアイス(日本未発売)という色が使用された内照式の2枚の白い壁、ノクターンを使った9mにもおよぶ床付けの家具でスタイリッシュなアーケードが完成した。

「ライトサイクル」は、流線型の美しいボディをもつバイクで、「トロン：レガシー」の中でも人気のアイテムのひとつ。登場人物がこのバイクに乗り、ダイナミックに疾走する姿に憧れるファンも多い。会場には、長さ2.7mもある実物大のライトサイクルが登場。すべてコーリアン®でつくられ、約1000個ものコーリアン®製のパーツを、シームレスにつなぎあわせて組み立てられた。大部分はノクターン、白いラインにはグレイシアホワイトが用いられている。この作品を手

[TRON designs CORIAN®]

主催

デュポン™ コーリアン® 及びディズニー

後援

Pitti Progetto Visconti, Altha®,
Capo d'Opera®,
Cappellini, Ernestomeda™,
Jacuzzi®, Lago®, Tao® Esterno

デザイン協力

Shai Akram, AquiliAlberg,
Dror Benshetrit, Jordi Canudas,
Giulio Cappellini,
Andrew Haythornthwaite,
グエナエル・ニコラ, 伊藤 節十 志信,
Lagostudio, Ilaria Marelli,
Marco Piva

技術協力

DuPont™ Imvelo™, Light Tape,
Luxit, Shicon, ソニー

表紙: "TRON designs CORIAN®": the kitchen and dining area (inspired by "TRON: Legacy" and made with DuPont™ Corian®) presented by Italian kitchen company Ernestomeda™ and designed by AquiliAlberg (photo Leo Torri for DuPont™ Corian®, all rights reserved.)

1: "TRON designs CORIAN®": the outdoor area (inspired by "TRON: Legacy" movie and made with DuPont™ Corian®) proposed by TAO Esterno, design Setsu and Shinobu Ito (photo Leo Torri for DuPont™ Corian®, all rights reserved.)

2: "TRON designs CORIAN®": Flynn's Arcade interpreted by French designer Gwenael Nicolas. The two walls and the black furnishing unit incorporating ten Sony's high definition TVs are made with DuPont™ Corian®. Flynn's signage is made with Light Tape® electroluminescent film (photo Leo Torri for DuPont™ Corian®, all rights reserved.)

3: "TRON designs CORIAN®": the Light Cycle of "TRON: Legacy" movie in a fantastic version entirely made with DuPont™ Corian® high-tech surface by Italian company Altha® under the guidance of Disney® and DuPont (photo Leo Torri for DuPont™ Corian®, all rights reserved.)

4: "TRON designs CORIAN®": the bedroom area (inspired by "TRON: Legacy" movie and made with DuPont™ Corian®) proposed by Italian furnishing Capo D'Opera® and designed by Ilaria Marelli (photo Leo Torri for DuPont™ Corian®, all rights reserved.)



2

▲「フリンのアーケード」はグエナエル・ニコラ氏がデザイン。2枚の白い壁は、長さ7.5m、高さ2.8m。表面には「フリンのアーケード」からイメージした模様が彫り込まれている。黒い床付けの家具には、1982年版の「トロン」の映画を映し出すテレビ10台が埋め込まれた。



1



3

▲映画に登場するバイク「ライトサイクル」。写真はすべてコーリアン®でつくられたコンセプトモデル。

掛けたのは、イタリアのアーサ社®である。

「セーフ・ハウス」は、主人公が暮らす隠れ家。ここでは、純白のコーリアン®に格子状にライトブルーの有機ELが格子状に走る床、壁、天井が特徴的。このフロリングは、長さ18.7m、幅13.5mのグレイシアホワイト。今回のために、特別に1.5m幅で製造されたコーリアン®の板から作られている。同じゾーンにある7mの本棚を組み込んだ、長さ13.5m、高さ3mの壁にも同じ板が使われた。

リビング、ダイニング・キッチンエリア、アウトドアエリア、浴室エリア、ホームシアターなどに分けられた「セーフ・ハウス」のエリア

中に置かれている数々の家具も、いくつかの企業やデザイナーが「トロン・レガシー」のイメージをもとに手がけた作品だ。アウトドアエリアのデザインは、日本人デザイナーの伊藤節十志信氏が担当。グレイシアホワイトを用いて作ったチェアやローテーブル、デュポン™コーリアン®でできた照明などのアウトドア用品が並べられた。

トロンの世界と、家具デザイン。2つの異なるフィールドで生まれるインスピレーションが「TRON designs CORIAN®」という場で結実し、「トロン・レガシー」とデュポン™コーリアン®の可能性を新しい形で示すイベントとなったことは間違いない。



4

▲「セーフ・ハウス」浴室エリア。何層にも重なった構造からもれる光がデザインの基本になっている。



父と娘のコラボレーションで生み出す 住まいを彩る雑貨ブランド

「ドーターデザインズ」

「デュポン™ コーリアン®」という素材は、もつと幅広く活用できるはず。ドーターデザインズ代表の堀川久美子氏がそう思いついたのは、帰省中に父親の作業場をのぞいた時だった。ファッション業界でマーチャンダイジングや新ブランドの立ち上げ業務に関わってきた堀川氏。実家は、デュポン™ コーリアン®を使った家具や什器の製作を家業にしていた。「父と妹がコーリアン®の端材を使って、遊び心あるオブジェを製作していたんです。それを見て、インテリア雑貨ブランドとしての可能性を感じました」。

現在、ドーターデザインズで



▲国旗をモチーフにしたフラッグプレート。デザインバリエーションは北欧諸国、伊、仏など。



▲スイーツなどのディスプレイにもぴったりのケーキスタンドは定番の他オーダーメイドも可能。

商品化されているのは、北欧などの国旗をモチーフにしたプレートと、おとぎ話にできそうなケーキスタンドが各数種類。

「かわいい色もあって、発色もよく、透け感があったりと、加工次第でいろいろな表現ができるところがコーリアン®の魅力です。多くの人に、コーリアン®の素材感やドーターデザインズの世界観を好きになってもらいたいです」と堀川氏。実店舗の来店もこれからの夢のひとつ。透光性や曲げ加工など新しいデザインに取り入れていきたいという。デュポン™ コーリアン®の新しい可能性も、どんどん広げてくれることだろう。

[ドーターデザインズ
DAUGHTER DESIGNS]

製造・販売
ドーターデザインズ

ホームページ
<http://daughter-designs.com>
オンラインショップ
<http://daughter-boutique.com>

お問い合わせ
daughterdesigns.info@gmail.com

使用された
デュポン™ コーリアン®



ティーローズ ほか



ドーターデザインズ 代表 堀川久美子氏

アジア初のデザインスタジオが 上海にオープン



お問い合わせ
MRC・デュポン株式会社
TEL:03-5410-8551

現地問い合わせ
dupont corian design studio shanghai
TEL:21-51569033



中国・上海にアジア初となる「デュポン™ コーリアン® デザインスタジオ」がオープンした。デザインスタジオ上海の監修は、世界的に著名なイギリスのデザイナー、マイケル・ヤング氏が手がけ、アートとテクノロジーの完璧な融合が演出されている。まず、ショールームに足を踏み入れると、展示されている独創的な家具がコーリアン®の加工性の高さを物語る。さらに奥へ進むと、アートの領域にまで高められた贅沢なウォールデコレーションや、繊細なインテリアグッズが展示されている。どのデザインでも、コーリアン®の特長が示され、デザインにももしろみを添えている。

近年、クリエイティブな都市としての発展に力を入れている上海で、このデザインスタジオ上海は、デザイナーや建築家にとって、アイデアの交換や交流が生まれる場所となっていくことだろう。



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

本社: 〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

「空想生活」発 デュポンTM コーリアン[®] 製品 ”ネコたまご”が販売開始に



【ネコたまご】

サイズ(幅・高さ・奥行き)
300×115×400(mm)

販売価格: 22,222 円(税込み)

お問い合わせ
MRC・デュポン株式会社
TEL: 03-5410-8551

空想生活Webサイト
[http://www.cuusoo.com/studio/
user/012703/0001/](http://www.cuusoo.com/studio/user/012703/0001/)

エレファントデザイン株式会社の運営するWebサイト「空想生活」から、これまでにないデュポンTM コーリアン[®]製のペットアイテムが誕生。同サイトでは、消費者の「あつたらいいな」という空想を、デザイナー、メーカーと協力しながらカタチにし、商品化することを目指している。その「空想生活」で、デュポンTM コーリアン[®]を使った製品アイデアを募集し、寄せられた提案の中から商品化へつながったのがネコ用ベッドの「ネコたまご」だ。狭いところに入りたがるネコの習性から発想されたもので、デュポンTM コーリアン[®]の加工性を活かした柔らかいたまご型にデザインされている。また、何匹ものネコや小型犬によるモニターレポートも行い、ユーザーの意見を取り入れて完成に至った。ネコがいないときにも、インテリアとしておしゃれに見えるデザインなので、フラワーベースなどにも使えそう。汚れやツメによる傷などもとりやすいなど、お手入れがしやすい点もコーリアン[®]ならではの。ペットの名前刻印サービスもオプションで用意されている。



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

本社: 〒107-0062

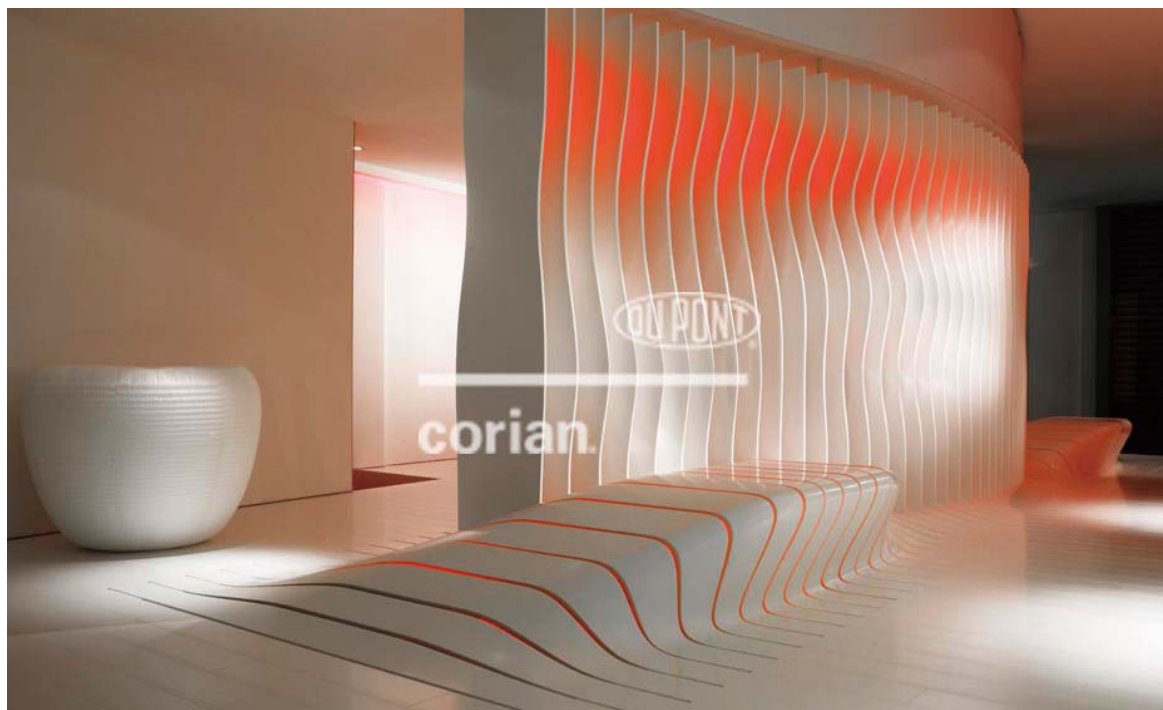
東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

コーリアン®が創り出した「変化する空間」

[コーリアン®スーパーサーフェス]



展示名称
"CORIAN® super-surfaces"

www.corian-super-surfaces.com

主催
DuPont™ Corian®

デザイン
Amanda Levete Architects



2009年のミラノ・デザインウィークで、デュポン™コーリアン®とアマンダ・レベテ建築事務所とのコラボレーション展示「コーリアン®スーパーサーフェス」が行われた。展示コンセプトは「変化する空間」。最大の特徴は、コーリアン®で作られた細長い棒が少しずつ形を変えながら連なることで、全体として動きのある面を構成している点だ。会場内に出現した椅子と一体化したような波打つ壁、一見それとは分らないキッチン・バス空間、見る者に躍動感を与える飾り棚などは、すべて細長いコーリアン®の棒の連なりで表現された。

デザインにも、加工にも最新のデジタル技術が使われ、床から立ち上がるユニークな形状のパーツは熱による曲げ加工で成型。平板そのままではなく、ねじれた形のパーツにしたことで、構造への適用という新たなコーリアン®の可能性を示す展示となった。



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

本社：〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

デザインも、音も、美しく。 デュポン™ コーリアン® でつくる 新しいスピーカーのかたち

[スクイーズフォン360°/ヌヴォラ]

クラウディオ・コルッチ氏

1965年スイス生まれ。

1988年les Arts Décoratifs (ジュネーブ)卒業後、1992年E.N.S.C.I (パリ)にて工業デザインを学び、1996年来日。クラウディオ コルッチデザインの代表として、グラフィックから、プロダクト、インテリアデザイン、建築まで、東京とパリを拠点に活動中。スクイーズ・ランプは、2001年パリ家具市で公開された作品。
www.colucci-design.com

撮影：AEIOU/Sebastian Mayer

▲「スクイーズフォン360°」のボディはすべてグレイシアホワイトで製作されている。「360度に音が広がるようにしたのは、新しい音の楽しみ方を提案したかったからです。最近では、オーディオに対峙して音楽を聴く機会が減っています。現代のライフスタイルに合ったスピーカーなのです」と山本氏。



▲音と光で空間を演出する「スクイズフォン360°」。

▲「ヌヴォラ」は、角度の調節で音場が変化。

▲天井から吊り下げられたオブジェのようなスピーカー「ヌヴォラ」。

音響素材としての デュポン™ コーリアン

「デザインタイドトーキョー2008」で、株式会社ケンウッドデザインが行ったイベント「no phonics (モーフオニクス)」で展示されたスピーカーコンセプトモデル「スクイズフォン360°」と「ヌヴォラ」にデュポン™ コーリアン®が使用された。

スクイズフォン360°は、プロダクト・インテリアデザイナーのクラウディオ・コルツ氏の作品「スクイズ・ランプ」をケンウッドのコーポレーションによってスピーカーに発展させたもの。「これまでの私たちのプロダクトでは、音ありきのデザインでした。しかし、今回はすでに完成しているデザインから、音をつくり出すという初めての挑戦でした」とおっしゃるのは、株式会社ケンウッドデザイン 取締役のファビアン・グレゴアール氏。

とはいえ、もともとスクイズ・ランプに使用されていたデュポン™ コーリアン®という素材をスピーカーへ転用することは、何の問題もなかったという。その点については、技術担当であるJ&Kテクノロジーズ株

式会社の山沢孝二氏にうかがった。「以前から音響用の素材としてデュポン™ コーリアン®に興味があり、物性データを検証していました。その結果、非常に優れた素材であることが分かっていました」。

スクイズフォン360°は、デュポン™ コーリアン®で作られたボディ内部の上下に、中・高音用のスピーカーユニット、底部にウーファーが設置され、360°度に音を響かせ無指向性スピーカーになっている。「特に注意した点は、オリジナルのフォルムを崩さない様に音質設計することでした。透過性を活かすために、部品の一部を透明素材で作る工夫もしています。さらに、デザイン性と素材の強度との兼ね合いをみながら、音の広がりや考慮した開口率を確保しました」と話してくださいしたのは、音質マイスターである株式会社ケンウッドの早川純一氏。

デザインの可能性を 広げる素材の質感

デザイン素材としても、面白さがあると話してくださいしたのは、ヌヴォラのデザインも手掛けた株式会社ケンウッド デザインのクリエイティブディレクター、山本俊輔氏。「スクイズ・ランプを見て、こんなことまでできるのかと驚きました。ヌヴォラでも、今までに使ってない素材をということとでグラサ ソリッドホワイトを採用しています。コーリアン®は素材自体に質感があり、人工というより、自然の素材に近い印象がありますね」。「帆」をイメージしてデザインされたヌヴォラは、揺らぎやゆたかりとした風を感じるオブジェのようなスピーカーだ。天井から吊るされたボード部分はすべてグラサ ソリッドホワイトでつくられている。「あまり軽くて薄い素材



▲前列左から早川氏、グレゴアール氏、山沢氏、後列左から山本氏、ケンウッドデザイン広報担当の若井氏。

ですと、余計な振動がおきて異音があります。その点でも、コーリアン®であるからこそ、実現できた作品だと思えます」と技術担当の山沢氏。スクイズフォン360°とヌヴォラ、2つの新しいスピーカーの提案が、これまで注目されなかった「響き」という側面から、デュポン™ コーリアン®のポテンシャルにスポットをあててくれた。

なお、スクイズフォン360°は、2009ミラノサローネの期間中、ミラノでも展示が行われる。

「スクイズフォン360°」
「ヌヴォラ」

デザイン
クラウディオ・コルツ
株式会社ケンウッドデザイン
www.kenwooddesign.com

サイズ
スクイズフォン360°:1870×450mm
ヌヴォラ:1150×190mm

製作
株式会社ケンウッド
株式会社ケンウッドデザイン
JVC・ケンウッド・ホールディングス
株式会社
J&Kテクノロジーズ株式会社

デュポン™コーリアン®加工施工協力会社
株式会社インテック

今回使用された
デュポン™コーリアン®

グレイシアホワイト

グラサ ソリッドホワイト

コーリアン®と“色の魔術師”ミッソーニのコラボレーション



◆上段／左

エントランスを飾った巨大な毛糸玉。ファッションから派生したミッソーニ・ホームの原点をコーリアン®で再現した、このプロジェクトのアイコンともなる作品。壁や床もコーリアン®製。

◆上段／右

ヨーロッパ新色の透明感のある白いコーリアン®と黒いレジンを組み合わせた円卓。中心と外側の円は“lazy Susan (回転盤)”のように回転する。ミッソーニの文字の形をしたシャンデリアを、円卓中央に埋め込まれたLEDが照らします。

◆下段

このプロジェクトのためにオリジナルカラーで提供されたBoffi社のキッチン“K2”。カメオホワイトにサプリーメーションで印刷したドット柄と2008年ヨーロッパ新色のワインカラーのワークトップがキュート。ワークトップをスライドして機能部分を全て隠すこともできる。



素材特性を活かす 色彩と先進技術

2008年4月、ミラノサローネの開催に合わせ、コーリアン®のデザイン性を、色の魔術師・ミッソーニのスタイルを通じて表現した『コーリアン®ラプスミッソーニ』がミラノで行われた。このイベントでは、アートディレクションをロジャー・ミッソーニ、監督を彼女の息子であるルカ・ミッソーニが手がけ、色彩感あふれる夢のような住空間が創り出された。また、コーリアン®の特长が、あらゆるところに活かされた。コーリアン®の加工性の高さを強調し、異素材との組み合わせでその硬さも確認できるダイニングテーブルや、スピーカーがなくても広範に音を伝えられる画期的なオーディオ設備内蔵の柱、また、ZehnderグループのRunter社とデュポンの合同チームが長期にわたる調査で作り上げたラジエーターのように、先進的な技術で、コーリアン®の潜在能力を引き出した数々の作品が展示された。

三井レイヨン **DU PONT** 合併事業 **MRC・デュポン株式会社**

本社：〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

デュポン™ コーリアン® でつくられた ジュエリーが美術館の収蔵作品に 「東京都現代美術館」



▲ジュエリーとしては初の収蔵作品となった嶺脇氏の作品。デュポン™コーリアン®は、これまでに制作された作品のシルエットを象ってカットされている。
写真提供: 東京現代美術館 撮影: 木奥恵三

SPACE FOR YOUR FUTURE

アートとデザインの遺伝子を組み替える
<http://www.sfyf.jp/>

会期

2007年10月27日～
2008年1月20日(会期終了)

会場

東京都現代美術館
<http://www.mot-art-museum.jp/>

問い合わせ

学校法人水野学園
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ
TEL:03-3499-0300(代表)
URL:<http://hikohiko.jp/>

デュポン™コーリアン®加工協力会社
株式会社エイベクス

使用された
デュポン™コーリアン®



グレイシアホワイト



嶺脇 美貴子 氏

ヒコ・みづのジュエリーカレッジにてジュエリーデザイン、貴金属の加工を学んだ後、同校講師として勤務。2008年10月中旬には、東京国際フォーラム・フォーラムアートショップ内ギャラリースペースで個展を予定しているほか、昨年N.Y.で行われた「ドコモダケ・アート展Docomodake exhibition」(<http://docomodake.net/art/>)にも作品を出品。同展覧会は東京でも開催予定

デュポン™コーリアン®でつくられたジュエリーアートが東京都現代美術館の収蔵作品になった。作者は、ジュエリー作家として国内外で個展を開催するわたわら、「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」の講師を務める嶺脇美貴子氏。作品は、同美術館で昨年から今年1月まで開催された展覧会『SPACE FOR YOUR FUTURE アートとデザインの遺伝子を組み替える』に出品されたものだ。

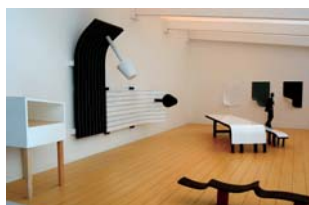
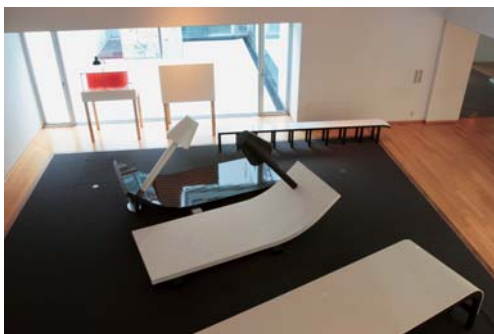
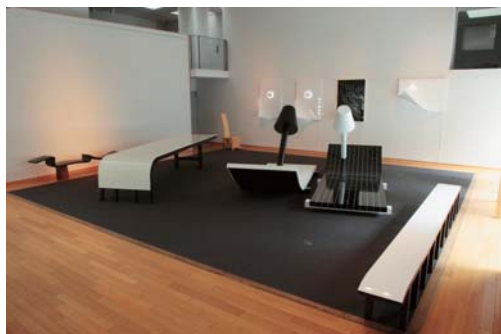
嶺脇氏は、100円ライターやお椀、ペン、プラモデルなど、身の回りにあるものをカットしてジュエリーをつくる。「はじめは、ガチャボンのケースでした。何気なくカットしてみたら予想外の形になったことが面白くて。それからいろいろなものをカットするようにになりました」と嶺脇氏。普段よく目にするものから、こんな形が現れるのかと驚くような、新しい形を採りだして見せてくれる嶺脇氏の作品は、

国内のみならず、ヨーロッパを中心に海外からも注目を集め、オランダのフアンソワーズ・ヴァン・デン・ボッシュ財団、オーストラリアのパワーハウスミュージアムにも収蔵されてる。

「デュポン™コーリアン®は、以前、学生の一人が卒業制作に使用したことがきっかけで、作品づくりや授業の課題にも使用していただいていた」とのこと。「コーリアン®は彫金の道具類をそのまま使えて、硬さもちょうどよく、適度な重さもあります。マットや鏡面など表面の仕上げも自在で、高級感、加工性とも、ジュエリー制作に最適な素材だと思っています」と嶺脇氏。

今回「デュポン™コーリアン®」は、展示台でありながら、その一部がジュエリーとしてカットされているという作品に使用された。嶺脇氏の作品について、東京都現代美術館の学芸員である関昭郎氏にお聞きした。「コンテンポラリージュエリー」というもの自体が、アートとしてあまり認識されていないのですが、嶺脇さんの作品は、広く一般の方に理解してもらって、現代アートの好きな方にも伝わる作品だと思います。そこで、ジュエリーの第二号の収蔵作品とさせていただきます。この記念すべき作品は「デュポン™コーリアン®」にとっても、初の美術館収蔵となりました。

光と曲線のアーティストがつくる デュポン™ コーリアン® のテーブル



使用されたデュポン™ コーリアン®
:カメオホワイト

アートフロントギャラリー主催
のアートエキシビジョンとして開
催された「アンテ・ヴォジノヴィツ
ク展」に、デュポン™ コーリアン® で
製作されたテーブルが展示された。
さまざまな素材を用いて、「光」を
彫刻表現するアンテ・ヴォジノヴィツ
ク氏は、1997年の来日以来、
日本を拠点に活動を続けるフラ
ンス人アーティスト。ヴォジノヴィツ
ク氏が創り出す独特の曲線、そし
て直線の美しさも同時に表現が
可能なデュポン™ コーリアン® なら
ではの作品と言えるのではないだ
ろうか。

展示会名:「アンテ・ヴォジノヴィツク展」

“真直ぐな曲線～光を含む全ての物質を流体と捉えた場合の重力と放
物線の因果関係”

URL: <http://www.ante-hp.com>

開催期間/2007年10月30日(火)～11月4日(日)

会場/ヒルサイドフォーラム

(東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF 棟)

企画・協力/アッシュ・ペー・フランス株式会社



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

本 社: 〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

ヤコブ・ワグナー、深澤直人が デュポンTM コーリアン[®]をデザイン



右/Loop(Sサイズ/Mサイズ/Lサイズ) 左上/ Vertigo 左下/ Vertigo Round

取り扱い店舗 B&B Italia Aoyama 東京都港区南青山6-4-6
TEL 03-5778-3540 FAX 03-5778-3541 www.bebitalia.jp

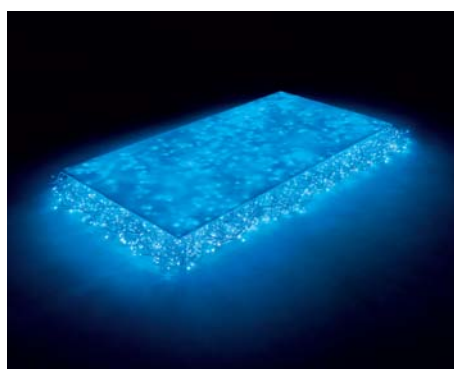
ヤコブ・ワグナーと深澤直人が、B&B Italia社の「Object Collection」で、クリエイティブな才能を発揮している。デュポンTM コーリアン[®]の衛生水準の高さと流麗なデザインが彼らの手によって、「Loop」、「Vertigo」、「Vertigo Round」という3つの形になった。ヤコブ・ワグナーがデザインした「Loop」は、取っ手とトレイの部分がなだらかなカーブで一体化。全てがコーリアン[®]で出来ている。深澤直人の「Vertigo」、「Vertigo Round」は、自然に見られる調和的な美しさを、不揃いの7つの円で表現した。「Vertigo」は小さな丸いボウルが四角いトレイに収まるようにデザインされ、「Vertigo Round」は、入れ子式に収納できるデザイン。こちららも全てコーリアン[®]で出来ている。これもB&B Italiaのみでの販売。

グラサ*ソリッドホワイト



いくつもの白の中から吟味された
抜けるような白。模様の無い
ピュアなカラーです。厚さ10mm。

※キッチン用途にはご使用いただけません。



グラサ*シリーズに
ソリッドカラー登場
発売以来ご好評を頂いている
グラサ*シリーズに、待望のソリ
ッドカラー「グラサ*ソリッド
ホワイト」が登場(2007年9月
発売)。優れた透光性と透明感をもつ
たグラサ*は、光とのコラボレ
ーションをより自由に演出します。



合併
事業

MRC・デュポン株式会社

本社：〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

テクノロジーとコーリアン®の 融合が生み出した、 近未来のインテリア展

～コーリアン®ヌーベル ルミエール～



蛍光灯で照らし出される都会の街の風景が幻想的なダイニングエリア。ダイニングテーブルは、ステージでスポットライトを当てるかのように、テーブルを囲むゲストを照らす。

コーリアン®の 透光性を引き立てる 最新の照明技術

デュポン社は、ミラノサローネ開催中の4月17日から23日、ミラノにて、世界的に有名な建築家ジャン・ヌーベル氏を監修に迎えた近未来インテリアのコンセプト展「コーリアン・ヌーベルルミエール」を開催した。

この展示では、イタリアの代表的照明器具メーカー「Targetti」、家庭用コントローラーで名高い「Le Brand and Biticino」世界的キッチンブランドの「Ernestomeda」、外装材やフローリング材を扱っている「Margaretti Group」の「ListoneGiordano」、ビルトイン機器のトップメーカーである「Scholtes (Indesit Company)」など、一流企業とのコラボレーションが実現した。また、コーリアン®の加工は、ほとんど全てをドイツの「JasenKopf」が手がけた。

「コーリアン®ヌーベルルミエール」でジャン・ヌーベル氏が目指したのは、素材の持つ豊かな表現力を活かすことと、現実的な住宅環境を作ること。つまり、「コーリアン®」のすべすべした肌「板の厚みの違いに

よって、光がみせる面白い形」を、暮らしの中にとりいれたスタイルを提案することである。

会場には、キッチンから寝室、浴室にリビングまで備えたロフトスタイルの広い空間が設計された。空間全体を覆う20mの長さの壁や床は全て、コーリアン®。大部分は、グレイシアホワイトと、透光性を付加した新色のアイスホワイト(日本未発売色)だった。

全体を通してテーマとなっているのが、コーリアン®と、照明やハイテク技術との融合。ジャン・ヌーベル氏は、加工次第でシームレスな見た目にも、繊細な表情にもなるミステリアスな素材の面白さを引き出すため、照明という切り口で、多数の工夫を凝らした。展示エリアのあらゆる電器製品は、来場者のアクションに反応するタッチパネルで操作ができるなど、双方向性の高いハイテク技術もいたるところに組み込まれた。

インテリアの 在り方を変えていく 革新的な提案

各エリアのインテリアも最先端技術とコーリアン®の特性を見事に融



上段／キッチンエリアのメインとなっているのがコーリアン®の透光性を最大に活かした食器棚。右中段・下段／スタイリッシュで使い勝手のよいキッチンもコーリアン®製。左／コーリアン®でやわらかな座り心地を実現したベンチ。

合したものでありだ。

キッチンエリアのメインとなっていたのは、アイスホワイトで作られた食器棚。コーリアン®のパネルを透かして、棚の中のさまざまなキッチン用品の影が浮かび上がるこの棚は、シルエットクイズのような遊び心と同時に、作業計画を立てやすくする一覧性も兼ね備えている。革新的な点は、桟木にアクリルを用いていることだろう。コーリアン®の透光性を最大限に生かし、構造材をデザインの一部とすることを可能にしている。キッチンももちろんコーリアン®製のもの。スタイリッシュなデザインだけでなく、sophisticatedのビルトイン型オープンなどの最新型の機器も搭載され、機能面にも優れたキッチンが提案されていた。

キッチンと並ぶダイニングエリアには、摩天楼を彫り込んだグレイシアホワイトのウォールパネル、内部から発光してテーブルを囲むゲストの顔を美しく照らすダイニングテーブルなどが展示され、都会的な雰囲気に演出された。

書斎スペースには、Lisstone Gioiardo®による画期的なウォールパネルが登場。この設計では伸縮自在で、壁面後ろにスペースを作り出

せる「Recess」という枠材を使用。壁面に掘られた細い溝に板を差し込むと、棚ができる仕組みだが、ケーブルや配線をすべて壁の中に隠すことができるため、壁面は途切れることなく大きな面とすることが可能だ。後ろから照明を当てると、いくつものスリットから光がこぼれ、壁全体がアートのような趣になる。

リビングにも独創的な技術を駆使したインテリアが並ぶ。壁面に投影された巨大な太陽のイメージは、タッチセンサーで自由に色を変えることが可能で、ワンタッチで部屋の雰囲気を変えてしまうことができる。存在感のあるベンチは、コーリアン®でやかさを追求した斬新な作品。小さな正方形を刻み込んだ座面には、特別なパネが組み込まれ、人が座るとびつたりとフィットするようになっている。

すべての作品は、革新的でこれまでに見たことのないものばかりだが、ジャン・ヌーベルによれば、この「コーリアン・ヌーベル・ルミエール」で提案されたインテリア環境が現実のものとなる日は、そう遠くはない。この展示をきっかけに発掘され、または見直されたコーリアン®の特徴が、近い将来、多くのインテリアを変えていくことだろう。

シンプルモダンに温かみを添える グラーサ*ホワイトのテクスチャー

【M.M.TOWERS フォレシス(R棟)】



Photo/金子俊男

通路の壁と天井をほんのりとやさしく照らすデュボン™コーリアン®のブラケット

M.M.TOWERS FORESIS (R棟)

所在地
神奈川県横浜市・
みなとみらい40街区

延床面積
76,995.82㎡

総戸数
601戸 (R棟のみ)

設計
株式会社三菱地所設計

施工
鹿島建設株式会社

照明設計 (共用エリア)
ヤマギワ株式会社

デュボン™コーリアン®加工施工協力会社:
ヤマギワ株式会社東日本TEC

使用された
デュボン™コーリアン®



グラーサ*ホワイト

みなとみらいの中心部に完成した超高層マンション「M.M.TOWERS フォレシス」R棟のエントランスエリアの照明に、デュボン™コーリアン®が採用された。「M.M.TOWERS フォレシス」は、R棟、R棟からなる総戸数1206戸の大型レジデンス。エントランスエリアのインテリアは、木ルーバーや石を使用した、温かみのあるシンプルモダンなデザイン。高級マンションにふさわしいラグジュアリー感も備えている。

「インテリア全体イメージを受け、照明設計もそれに合ったものにした。具体的には、できるだけ器具を見せないように配置し、見せる部分にはシャンデリアなどのデザイン性のあるものを採用しましょう」というご提案をしました」と話してくださったのは、照明設計を手がけた、ヤマギワ株式会社フランニングデザインセンターの佐々木泰和氏。コーリアン®が使用されたのは、エントランスロビーとエレベーターホールをつなぐ通路に設置されたブラケット6台のセード部分だ。

「エントランスの中心的なエリアなので、シンプルでありながらも、華やかさを演出したいと考えました」と佐々木氏。そこで、光が拡散して

実際の照度より「明るさ感」を出せるブラケットを採用すること。

「ブラケット自体のデザインもフォルムはシンプルに、けれど寂しい印象にならないようにテクスチャーのある素材を使いたいと思いました」。

そこで選ばれたのが、透光性のあるデュボン™コーリアン®グラーサ*ホワイトだった。しかし最初は、12.3mmという厚みに、戸惑いを感じたという。「アクリル板などを使用する場合は、8mm厚などが主流ですから。でも完成してみると、その厚みがかえってよかったと感じました。重量感のある仕上がりになり、小端まできちんとテクスチャーがでているところも気に入りました。角がアンダーになっている点や、光源からの距離に応じて明るさが変化する様子なども希望通りです」。

また、コーリアン®の特性である、接着部分のシームレスな仕上がりにも、満足していただけたようだ。

「接着面が見えないというお話しはうかがっていたのですが、ここまできれいに仕上がるとは思いませんでした」という佐々木氏。その言葉は、デザインをイメージ通りに上げることができたコーリアン®の加工性を、あらためて証明してくださった。

ラグジュアリーなキッチンツール

「ナイフブロック「Type L」」

ナイフブロック 「Type L」

サイズ
ブロック黒
124×124×300 (mm) / 約2650g
ブロック白
128×138×175 (mm) / 約940g

価格
¥126,000

お問い合わせ
貝印株式会社 国際営業部 家庭用品
TEL03-3866-3741
www.braskai.net

使用された
デュポン™ コーリアン®



グレイシアホワイト



ノクターン



キッチンスペースをより美しく演出するツールとしてデザインされたナイフブロック

Photo/Richard Haughton

「宝石のような包丁」。独創的な料理でフランス料理界に新しい時代を切り開いてきたフランス人シェフ、ミシェル・ブラス氏は、機能性と美しさを妥協することなく追及した7本の包丁をそう表現した。「Michel BRAS」は、日本の刃物メーカー・KAI（貝印株式会社）が、ミシェル・ブラス氏とのコラボレーションによって誕生させた包丁シリーズだ。この、「宝石のような包丁」を、より美しくひきたてる専用のナイフブロック「Type L」が、デュポン™ コーリアン®で作られた。7本の包丁がびたりと納まった姿はまるでアート作品のような美しさ。白と黒の2つのブロックは完全に独立し、自由に組み合わせることができる。どのような置き方でも、どの方向から見ても美しいデザインを、より完璧に近づけたのが、コーリアン®のシームレスな仕上がりだ。

「これだけのシームレス感をもた

らすことができる点も、コーリアン®のすばらしいバリエーションではないでしょう。かとおっしゃるのは、「Michel BRAS」のブランドプロデュースを手がける、株式会社解体新社・代表取締役の深谷哲夫氏。「コーリアン®」は水に強いなど、キッチン

ン周りに使用する素材としてのベシクな性能を備えていながら、繊細な施しや、エレガントなフィニッシュが可能です。Michel BRASが目指すコンテンポラリーな美しさを表現するのに、雄弁な素材であるとデザイナーの五十嵐久枝さんは考えました。

表面をマットに、繊細に仕上げられた、グレイシアホワイトとノクターンは、シルクのような上品な光沢を放っている。

「90年代以降、キッチンスペースを単なる調理の場所と考えず、家族が長く過ごすための場、あるいは社交の場とするライフスタイルが、欧米を中心に広がっています。キッチンスペースにも高級感やラグジュアリー感が求められるようになり、コンテンポラリーなデザインや機能を備えたキッチンが登場していますが、キッチンツールは希少でした」と深谷氏。包丁だけではなく、収納にもこだわったKAIの提案は、まさにこうしたニーズに応えるもの。その実現を可能にしたコーリアン®もまた、時代のニーズにマッチした素材であるといえるだろう。

漆とコーリアン®の邂逅



漆洗面ボウル Glob38
(サイズ:380×144mm)
¥176,000

お問い合わせ

製造/株式会社Duco
TEL 042-724-6623
<http://www.duco.co.jp>

販売/株式会社インテック
TEL 0422-43-8801
<http://www.intec-net.co.jp>

9000年の歴史を持つ漆とデュポン™コーリアン®が出会い、新しい美術工芸が誕生した。開発したのは、漆塗装・漆器製造の株式会社Duco。同社ではこれまでも、ガラスや革、アクリル、銀などに漆を塗る技術を開発し、新感覚のネオ・ジャポニズムを提案してきた。

「漆とコーリアン®は相性がよく、木材のように下地処理をほどこさなくても漆を塗ることが可能です」と同社の代表取締役・大堀和子氏。木の場合には、弱さを補うため、漆を14回以上重ねて塗るが、コーリアン®の場合は5回程度。全工程では、20工程以上少なくなるという。

同社がコーリアン®を下地に用いて製作したのは、洗面ボウル。コーリアン®の加工は株式会社インテックが手がけた。

「本来、漆は水に強い塗料です。漆の用途の広さをもっと広く知っていただけたらと考えています」という大堀氏。浴槽への塗りも可能という。機能性と工芸作品の美しさを兼ね備えた洗面ボウルは、リビングや寝室などに設置しても違和感なく、インテリアとなる点も新しい。

愛犬にも 上質なアイテムを

ペットアイテムの新ブランド「カドル」が株式会社ソアーズから誕生。ブランド名の「CUDDE（カドル）」とは、愛情を持つて抱きしめるという意味。

機能性を備えたシンブルモダンなデザインに、抗菌・脱臭効果、手入れのしやすさを考慮したユニークな素材を使ったペットグッズを提案している。ボウルを固定するプレートやスタンドに、デュポン™コーリアン®、グレイシアホワイトが採用された。



W&Sディッシュプレートセット
ストレート型
S¥39,900/M¥47,250
W&Sディッシュスタンドセット
S¥48,300/M¥56,700
お問い合わせ 株式会社ソアーズ
TEL 03-5773-8393
<http://www.cuddle.co.jp>
デュポン™コーリアン®加工協力会社:
株式会社インテック

三菱レイヨン **DU PONT** 合併事業 **MRC・デュポン株式会社**

本社: 〒107-0062

東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル

TEL: (03)5410-8551 FAX: (03)5410-8501

URL: <http://www.dupont-corian.net>

素材の可能性を拓ける デザイナーの視点

ミラノデザインウィーク 2018/Peep

安藤北斗氏と林登志也氏によるコンテンポラリーデザインスタジオ「we+」が、ミラノデザインウィーク2018の期間中に開催された「Materials Village」で新作「Peep」を発表。その一部に「コーリアン®」が使用されたということでお話をうかがった。

「Peep」は、通常では見ることでできない光学現象を可視化する照明とパーティションのシリーズです」と安藤氏。原型は2017年にMaterial Connexion Tokyoが東京で開催した「MATERIAL DESIGN EXHIBITION 2017」で制作。さまざまな素材の持つ可能性をデザイナーの視点で引き出し、新しい用途につなぐ道筋を紹介する企画展で、we+はNBCメッシュテックとコラボレーション。通常は医療用のフィルターやシルクスクリーン印刷の版などに使われる高精密メッシュの新たな使用方法を探った。そのプロセスの中で生まれた作品をアップデートし、ミラノで発表したのが「Peep」だ。

「当初は新しい用途を見いだすまでのプロセス



「Peep」

高精細のメッシュを介して光や風景を眺めることで生まれる“分光”や“モアレ”といった現象を抽出し、「Peep = 覗く」ことで、異次元の世界を体験できる照明(上)とパーティション(下)のシリーズ。

PHOTO: Masayuki Hayashi

使用色
ディープロクターン



●デザイン we+ inc.
<http://weplus.jp/>
●コーリアン® 加工協力会社 大日化成工業株式会社

を見せることが目的でしたが、さらに作品としての強さをも打ち出したいと考え、メッシュ以外の素材を見直すことにしました」と林氏。そこで照明・パーティションとも筐体部分の素材を「コーリアン®」に変更。「ミラノでは作品が手に取られることが多いのですが、人の手というのは、触るだけでなく、さまざまな情報を感じとり、触れることでも「上質感」を伝える素材だと思えます。また、無垢から削り出したかのようにジョイント部分が見えない仕上がりも、プロダクトとしての精度の高さとなり、人の目にきちんと伝わるのではないかと考えています」と安藤氏。

コーリアン®の加工を手掛けたのは、大日化成工業。「今回はインテリアとしての高いクオリティを保ちながら、機械部品としての寸法精度や強度を保つ必要もありました。試行錯誤を重ね、新しい加工方法にも挑戦しました」と同社の平澤正嗣社長。驚くことに、デザイナーのクリエイティブな発想は、「コーリアン®の可能性」もいつの間にか拡張していたようだ。